

「龍谷大平安ボールパーク竣工式」記念試合〈対 県立岐阜商業高等学校〉

校長挨拶より

空は深く澄み渡り、さわやかな秋晴れの今日の佳き日、龍谷大平安ボールパークの竣工にあたり記念試合を挙行いたしましたところ、多数のご来賓のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。本日ここに、醍醐寺様をはじめ地元住民のみなさまのご理解とご協力のもと、めでたく「龍谷大平安ボールパーク」が完成いたしましたこと、理事長とともに衷心より御礼を申し上げます。先ほど 11 時 30 分より、クラブハウス 2 階ミーティングルームにて、無事竣工式が執り行われましたことを、ここにご報告いたします。

両翼 100 尺、センター120 尺の広さに、外野は全面人工芝の本球場は、伏見区醍醐の地の緑に囲まれて、本当に素晴らしいものものとなりました。そして、何より 1970(昭和 45)年 10 月 14 日亀岡市の亀岡グラウンド竣工から実に 42 年ぶりに京都市内に練習場が戻ってきましたことを心から嬉しく思っております。

さて、岐阜県立岐阜商業高等学校硬式野球部のみなさまにおかれましては、朝早くから遠路はるばるお越しいただき、球場竣工に花を添えていただきましたこと、この上ない慶びであります。誠にありがとうございます。ご承知のとおり、県立岐阜商業高校は、夏の甲子園〈選手権大会出場 28 回、優勝 1 回、準優勝 3 回〉、春の甲子園〈選抜大会出場 26 回、優勝 3 回、準優勝 3 回〉という名門中の名門であります。県立岐阜商業高校と平安の甲子園での戦いを振り返ってみますと、1936(昭和 11)年 8 月 21 日、第 22 回選手権大会(全国中等学校優勝野球大会)の決勝戦に逆(さかのぼ)ります。9 対 1 で県岐商が勝利をおさめ全国制覇をされております。この当時は、全国の参加校数は 665 で代表校は 22 校でした。そして、次は 2 年後の 1938(昭和 13)年 8 月 21 日、第 24 回大会の決勝戦です。今度は 2 対 1 で平安が 2 年前の雪辱を果たし、全国制覇を果たしております。翌 1939(昭和 14)年 3 月 28 日、今度は第 16 回選抜大会の準々決勝戦で 4 対 1 で県岐商が勝利をおさめ、その大会で準優勝を果たしておられます。続くは 1956(昭和 31)年 8 月 20 日、第 38 回選手権大会の決勝戦で 3 対 2 で平安が全国制覇を果たしております。この頃には全国の参加校数は 1739 校となっております。一番近いところで 1997(平成 9)年 8 月 10 日、第 79 回選手権大会の 1 回戦で対戦しており、8 対 4 で平安が勝利をおさめ、今大会は平安が準優勝に輝いております。この時には、もう全国の参加校数は 4093 校になっており、甲子園の出場校数も 49 校となっております。このように、選手権・選抜を併せて計 5 回戦わせていただき、そのうち 3 回が夏の選手権の決勝戦という、本当に熱戦を繰り広げてきた古豪、県立岐阜商業高等学校をお招きしての記念試合ということで我々といたしましても感慨も一入(ひとしお)であります。

みなさま方におかれましてはお時間の許す限り、ご観戦いただき、どうぞゆっくりと楽しんでいただきたいと思います。本日はお忙しい中、誠にありがとうございます。